

刊夕 日十月八



定価 一部金貳拾五圓 金五拾圓 郵費五圓
廣告料 五圓以上 五圓以下 行金五拾圓
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常盤毎日新聞社
印刷所 常盤毎日新聞社

星先生の全貌 (一)

衆議院議員 伊藤仁太郎

三十三年前の兇變で、星先生は斃れたのであるが、丁度十日ばかりたつと、宇都宮の同志が、私を訪ねて来て、先生の全傳を話してくれ、といふ依頼であつたから、私は哀愁の涙、尙ほ乾かぬ身を以て、宇都宮へ赴き、先生を語る事にした。七時開會といふのに、五時にはもう満員となり、會場の木戸は壊される騒ぎであるから、豫定より二時間早く、五時に登壇した。

それから、一休みもせず、演説をつづけたが、十二時半になると、臨監の警察官が「十二時を過ぎれば翌日の分になるのだから、改めて開催届を出して貰はなければならぬ」といふので止むを得ず、打切る事にした。

誤解、若しくは曲解に基づくものである。

それが、先生世を去つて既に三十三年の今日、尙ほ残つてゐる。最近の「文藝春秋」に、市島春城氏が星の事を書いて居るが、其中に「星は金儲の場所として東京市會へ乗出したのである」と述べてその例證として、參事會員の太田某の關係した事件で二千五百圓の金を取つたといふ事を、擧げて居るが、あの當時の星の社會的地位から言つて、金儲のために、市會へ出たとは常識から見ても考へられぬし、又二千五百圓といふ額を以て、星を攻撃するのには可笑なものである。

ノット

蝮に中毒したときは布海苔を煎じて飲むと毒を消す。

私の久しい政治生活の間で、此時の七時間半といふのが一番長い演説であつたが、それでも星先生の全部を語り盡す事は出来なかつた。今日は、時間もないから、私はほんの大體を申し上げ、先生の風貌を偲んで見たい、と思ふ。

市長になつた。然し、何分にも口の人であつて、仕事する人ではないから、市政にも迂いのであるから、何かにつけて危なかしい。そこで此政治家を、蹟かしてはな

【朝】うすくすー甘藷
【晝】煮肴ーいぼだい煎付 筆生姜
【晩】にしめー里芋、ふじ豆らぬといふので、友人等が心配して、尾崎支援のためにつつたのが常盤會である。此會の主なる者としては肥塚龍、丸山名政、福田又一、高橋義信、森久保作藏、西澤善七、中澤彦吉等が中心になつて居た。此中で星に關係の深い者といふならば、森久保だけであらう。肥塚、丸山、福田の如きは改進黨創立以來、大隈の配下である。これだけを考へて見ても、常盤會と結付けて、星先生を攻撃するのは可笑なものである。

世間には常盤會を引合ひに出して、星を攻撃する者があるけれど、何ぞ知らん常盤會は、星の死後に出来たものであるから、馬鹿々々しいではないか。先生の死後、市長の松田秀雄が止めて、尾崎行雄が

世人から疑ひを持たれて居るが、現に一昨晩も斯ういふ例があつた。國史普及會の集りがあつて、これへ出席したら、一紳士が私に質問して

「星さんはあれだけ有名な人物だが、親や出生地が判らないのは、どういふ譯でせう。」

「如何に星でも、親がなくては生れまいし、また當然生れた土地もあるのです」と答へると

「實はこれ迄、紀洲熊野で生れたやうに聞いて居たが本當であらうか。」

世間には、外にもさう思つて居る人はあるらしいが、あれ程ハツカリして居る事實でさへ、斯くの如く、疑はれるのだから、妙なものだ。斯ういふ事も、星の偉い所かも知れない。

家相 人事 平島野
地相 前島澤
鑑定 断定
家相 人事 平島野
地相 前島澤
鑑定 断定

【八白】金談の嚴談あか取引(八)平を生るか何れ明日の吉日を以てすへし【九紫】家内に病人あるか親戚にあるか或は縄れ混雜を引起す事あれば萬事に注意

新流行型 海世用品陳列

ツルヤ 電一四〇

御用命は印刷物の

常盤毎日印刷株式會社

急告

酷暑の砌り各位益々御清勝の段奉賀上候陳者今般凍水及其他諸原料騰貴の爲止むを得ず本日より左記の通りの値段に改正仕候間何卒御諒承の上倍舊の御引立に預り度此段急告仕り候

八月四日より改正値段

並氷水	一金五錢
種氷水	同十錢
アイスクリーム	同十錢
アズキアイス	七錢
ミルクセーキ	廿錢
水豆	十錢

平署管内 平町氷水商組合員

魚清食堂部
藤市氷店
藤寅氷店

旭硝子株式會社製品

赤菱印 板ガラス

硝子 壺
硝子 食器
其他 各種

松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

外科 小兒科 内科

學博醫士 渡部 義夫

女 醫 渡部 きい子

入院應需 渡部 外科

平町田町大通り(電話二七七番)

平驛運輸狀況は

黒字づくめ

市況が幾分活氣立つたか?

平驛去月中に於ける運輸統計は乗者四万二千四百八十人で昨年より千六百人の増加、降者は四萬一千三百五十三人で前年に比し一千四百六十人の増、また乗車賃金の十九萬七千六百圓九十七錢は昨年比し五百四十七圓四十四錢増加した次ぎに貨物の發送料は三千二百二

十四噸で五百八十四噸を増し到着量九千二百十二噸も五百四十二噸を増加送貨銀の五千八百圓四十錢は九百四十六圓九十八錢を増す等黒字づくめにホク／＼して居るが是れを見て市況が幾分活氣立つて来た事が肯ける

農事分場視察

安達郡中堅農民同窓會員五十餘名は本十日來郡神谷農事試験分場其他を視察した

平驛人事異動 平驛に於ける人事異動は昨日左記の如く發表された

運轉係 大島 恒介
任水郡南線下野驛長
車號係 高木喜一郎
任平驛運轉係
豫備助役 鈴木 彌平
任本線赤塚驛助役
内勤車掌所坂本 良男
任平驛豫備助役
車掌所助役信澤 辰藏
任水郡線西倉驛長

被害を未然に防げ

古物商座談會に臨んだ 警炭當局から注意書を

既報先般の三堀檢事及び警察當局を中心とする古物商組合幹部の座談會に参加した警城炭礦にては直ちに礦業所長の名に依つて左記の注意書を従業員一般に配布した由

近來事業用品及金物類銅線等の盜難に罹るもの多し、窃盜賊物故買の罪に處せらるゝもの亦多數あり、平警察署及平區裁判所檢事局に於ては如何にして斯る頻發の犯罪を未然に

區長會議

山盛りの案件

既報平町では本十日午前十一時より町會議室に區長會を開き左記案を協議し終つて唯野平稅務署長の講演があつた

- 一、區長事務引繼の件
- 一、滿洲自衛移民慰問の件
- 一、貧困者調査の件
- 一、現住者名簿加除整理の件
- 一、汚物掃除の件
- 一、傳染病豫防の件
- 一、貧困者救療の件
- 一、各種願届勵行の件
- 一、納稅改善の件
- 一、土木匡救、排水側溝工事の件
- 一、道路溝渠堤塘敷に接し工作物建設に關する件
- 一、米生産調査の件
- 一、縣議補缺選舉の件
- 一、區費整理決算の件

虛弱兒の体重増す

縣主催林間學校好成绩

去る一日より新舞子海岸に開始された平町小學校虛弱兒童の本縣主催林間學校は昨日終りを告げたが全員六十名に對し衛生技手箱崎代氏が最後の體格検査を行つた所体重は最高三百五十九、最低五十九、一人平均二百六十六、多々増し非常なる成績を挙げたと

就職後の状態を

各方面に問合す

卒業生を懐ふ平商校長

平商業學校校長矢野泰次郎氏は今夏暑中見舞を兼ね卒業生の雇主を初め幹旋者に對し就職後の状態を問ひ合した

臺東北學院に於いて東北中等學校の試合及び明治神宮豫選大會が開催されるので出場準備に目下猛練習中であるが出場選手は左の如くである

阿部文平 遠藤文也 白井晃 武藤兼一 林武義

通話停止廿三件

曾つて観ない料金滞納

平局の第二期電話使用料納期は去月末日であつたが未納者續出して通話停止二十三件の多數に達したので極力督促せる結果現在未納者は七名に減じた由

海邊の便り

平第一臨海學校通信 第七信 八・七

陰鬱な空も晴れですが、少し朝が訪れた。眞赤な太陽が海に浮ぶ頃、吾々は何時もの様に濱でラヂオ體操をし、新鮮な空気を呼吸しながら汀を散歩した。今日は充分に焼かう、餘す處も一日だ。眞黒になつて驚かしてやろう。皆々元氣一ぱいで午前の水泳も終つた。

籠球戦に

學童連勇む

警中競技部主催濱三郡小學校兒童籠球大會第二回優勝

常設館たより

平、館、日活時代劇、澤村國太郎、鈴木京子主演 『仇討一番原』パラマウン ト映画(オールトキー) スチュアート・アーウィン主演オールスターキヤネ ト『ハリウッド大騒ぎ』 日活現代劇、夏川静江、中野弘二、峰吟子主演 『蒼穹の門』

臨海學校最後の晩である

夕食はライスカレーの御馳走で腹をふくらし、夜は茶話會で思ひ／＼の感想やら餘興やらで、意義ある最後の夜の眠りに入る。

- にさらされながら而も我校の爲に戦ふのである。我々もじつとして居られない。一同は應援に行く。さすが挑戦を申し込んだだけあつてコントロールのあるスピートボールにて攻めて来た、然し吾チームはこれをよく選びよく打つた。二時半見事なスコアにて吾チームが大勝利した選手並に兩校の得點左の如し
- 上田崎浦藤部田内田 井太山山齊友菅關吉 投捕一二三遊左右中 四ツ倉3000025
- 平 0422311
- 七日の間吾々は水に入つては照され、砂をあびては水に入り、又照される。幾度か繰返された結果身體は赤銅の様である。今日は其の黒ンボー大會を海邊にて開き先生方が審査された。その結果目出度入賞した人々にはそれ／＼、クロンボー賞の賞状を授與された
- (尋五) 一 堀江 直
二 鈴木 晋平
三 金子 博
四 水野 勝一
五 小野 勝三
六 野崎 文彦
七 後藤 文彦
八 猪狩 勝次
九 菅田 隆之
十 小坂 隆通
十一 齋藤 常吉
十二 井上 正
十三 宮本 正
- (高等科) 一 齋藤 常吉
二 井上 正
三 宮本 正

病妻を背負ひ

點呼に應召

懷中には一文もなく

非常時に此責任感

石城郡神谷村大字上神谷佐藤淺治郎長男(三)君は昨年十一月より山形縣月山軍用路開鑿工事に妻キヨ(三)と出稼中來る十三日の簡閱點呼に召集され非常時の際として責任を感じ殆んど無一物で病妻を脊負ひ歸國の途中昨九日郡山市役所に救濟旅費を給された

來年の夏は

ホーム設置

平驛にては今夏海水浴客の便を圖り波立樂師裏に假停車をなした所頗る好成績を挙げたので來年は假ホームを設置すべく仙臺鐵道局に對し申請した

清涼飲料水を

再び峻烈な取締

不良品ありとの噂に

平署ではさきに市内一齊に清涼飲料水の取締を行つた結果實に驚くべき多數の不良品を發見しこれ等は何れも廢棄處分に附し市内の製

商用の折り

出來心で窃盜

家人の不在を見込んで

石城郡水戸村字合戸猪狩一(三)郎は去月廿七日商用として平町に來り古鍛冶町元木ハル方の前を通つた際家人が不在なので忍入り現金二圓餘りを窃取した事發覺目下平署で取調中

第三校兒童

赤井嶽登山

五六年男生は一泊二日間の豫定にて關御井嶽に登山すべく本日午後二時徒歩にて出發したが參加兒童は百二

十六名、今晚、師寺に泊り夜の境内を散步してお話を聞き僧侶より修養談を聞いて明日水石山の頂上に登り山上の大氣を吞吐して下山歸途に着くと

舊盆祭に

臨時列車

運轉申請中

平驛にては來る九月三日より三日間の舊盆祭に際し例年の如く臨時列車を運轉すべく目下東京鐵道局に申請中であるが運轉區開及び豫定時間は左の如くである

- 久之濱行午後六時卅二分 同發 同 七時八分
- 久之濱行午後六時卅二分 (四日)
- 久之濱行午後六時卅二分 同發 同 七時八分
- 小川行同 六時廿三分

波に浚はれた

溺死体が漂着

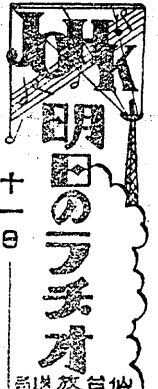
昨日午前八時頃石城郡泉村大字下川海岸に年齢二十八才位の男の溺死體が漂着したので植田署で直ちに係り官が出張檢視したが右は同郡入遠野村大字入遠野字東

發狂した資産家

社寺巡りの通知

一足違ひでまた何處へか

石城郡大浦村資産家中野甚左衛門(三)は去る七月上旬精神に異常を呈して行衛不



明日の天気 今夜も明日も北東の風時れ曇り相半し處により驟雨

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話「燈火管制陸軍科學研究所陸軍工兵大尉石川清一」
- 後六、二五(東北北海道)産業講座「我國木産業の特殊性と其改革方針」北大水産専門部教授農學博
- 同發 同 七時廿五分
- 湯本行同十一時二十分 (五日)
- 久之濱行午後六時卅二分 同發 同 七時八分
- 小川行 午前零時二分
- 久之濱行 同 零時九分
- 高萩行 同 零時十分

明日の部

- 後八、五〇 義太夫
- 之助
- 後九、三〇 時報 ニュー
- 氣象通報 番組豫告
- 前六、三〇 家庭講座
- 後二、〇〇 夏期講習家庭講座「長唄のお稽古」十唄 杵家七代三味線 杵家彌七
- 後三、三〇 防空情報
- 後六、〇〇 子供の時間お話「楽しい夏の夜の遊び」關猛
- 後六、二五 東北北海道産業講座寒地に適する稲作多收の要訣「宮城縣柴田農林學校教授齋藤義一郎
- 後七、三〇 講演
- 後八、〇〇 漫談「スタン
- ドのホームラン」 里見義郎

鎌田の燈籠流し

優秀品には賞與

平町鎌田町青年分團では來月九日例年の如く夏井川の燈籠流しを行ふべく準備中であるが製作意匠の優秀なものには本年も一等より十等迄賞品を贈ると

漁港内を清掃する

江名青年團員總出動

石城郡江名町青年團は今月中旬頃全員出動して漁港内の清掃奉仕を行ふと

早起會

三年生以上が

平第三小學校にては今朝五時より七時迄三學年生以上の早起會を催し國旗掲揚、宮城並皇太神宮遙拜、ラヂ

料理店の娘

雇人と駈落

茨城郡新治郡土浦町辻小路料理店久田兼吉次女アイ

平職票紹介所報告

- 回人を求める方
- △煉炭製造 十九迄 尋卒
- △十月圓位(東京市某)
- △小店員 十五才 尋卒
- 給料面談(平町某)
- △石綿工見習 十六才 尋卒 仕着小遣(平町某)
- 回職を求める方
- △電工 十八才 高卒 給料面談(平町某)
- △通信事務員 二十四才 中三修 給料面談(内郷村某)
- △集金員 二十五才 高卒 給料面談(内郷村某)
- △雜役 二十五才 高卒 給料面談(湯本町某)



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第十二回 血に飢ゆる村正

資正が上の一番

仙吾村正義に依つて向ふ
槌をいたし、資正一心にな
つて鍛へ上げた一刀、鏝下
し、砥も相濟み、棒鞘書入
れも美事になし、白木の三
寶へ載せて切火を打つて、
八百萬神と認めてある掛物
の前に飾つて、資重、資正
村正の三人が拜をなし

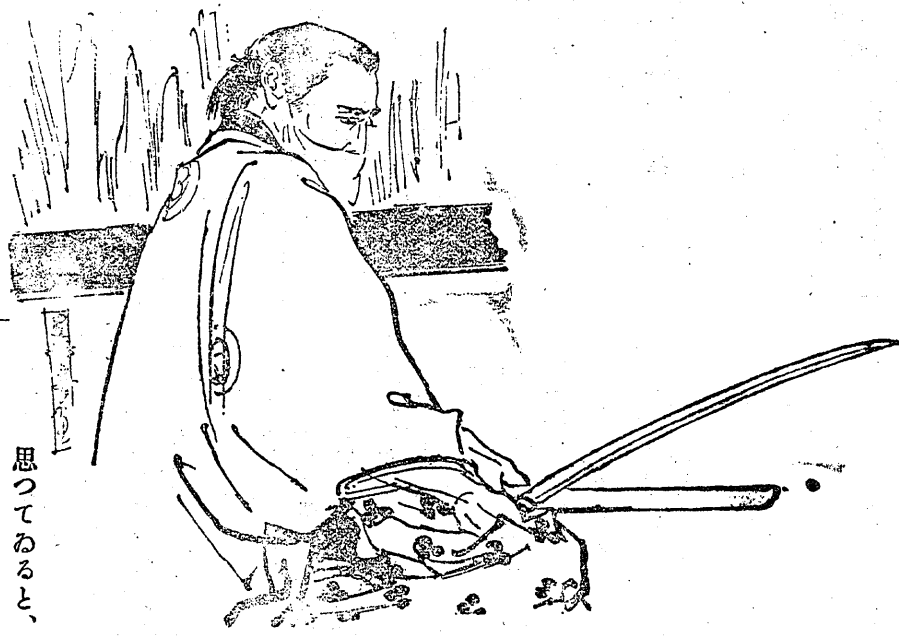
村『さて御親子、之なる劍
は無類の上出来でござるか
ら、明日必ず上の部に入る
に相違ございませぬ、御心
配無用今夜は緩りお寝みな
さるが宜しい』

と、村正が力を附けたか
ら親子の喜びは一通りでこ
ざいませぬ、さて夜が明け
る愈々當日、備前の兼光を
始め諸國の刀鍛冶が澤山集
まつてゐる、雜賀明神の神
前左の方に十五間四面の假
小屋を作り、此處に諸國の
鍛錬師が集まり、鑑定を致
します、正面に八百萬神並
に雜賀明神の掛軸を掛け神
酒を供へ、幣束などを立て

ゝある、其の前に備前兼光
越中御腹山佐伯の住人五郎
次郎則重、其の他左右に名
ある人々が居列んでゐる、
籤引きをして順々に己の鍛
へた刀を持つて出て鑑定

して貰ふ、第五番目の籤を
引いた資正が、心静かに白
木の臺へ載せた一口を恭し
く持つて出でる、備前兼光
覆面を掛けたる事にして、

打つて
兼『打上げたりや鍛へたり
誠に以て天下無類の名作か
な』
と大層褒めて呉れたから
資正大きに喜んで後へ退る
兼平から則重、其の他の人
の手に渡ると、何れも感に
堪えて見惚れる位、其の内
に順々に三十餘名の鍛へた
る劍の鑑定が終ると、愈々
其の出来に依つて位附けが
發表される、資正は兼平其
の他が褒めて呉れたが、何
番目位に呼ばれるだらうと



之を取上げ、押載して一通
り朴の木で造りし棒鞘を檢
め、又押載して鞘を拂ふ、
其の時は只一心の外決して
他事を思はず、暫らく兼光
は打眺めてをりましたが、
再び鞘に納めハタと横手を

思つてゐると、帳
面掛りが聲高らかに
帳『上の一番、和泉國の住
人資正』
と呼上げた、資正餘りの
嬉しさに『ハイ』と答へる事
も出来ない位、徐々と進み
出ると、兼平、免狀を呉

れる、之れが爲めに資正一
旦は死なうとまで覺悟した
のだ、現在我手に免狀を受
けて足の踏み所を忘れる位
第二番は京都油小路の住人
長兵衛尉國重、第三番は石
見の國の住人久左衛門尉直
綱、其の外三十人ばかりは
コミだ、早速三口の太刀は
一、二、三の順を附け、其
の下へ名前が入つて、之を
額堂へ納め、夫から大酒宴
が始まる、資正は額の上
のを見る少しも早く父と
村正に知らせやうと弟子を
連れて飛ぶやうに戻つて來
る、資重も村正も吉左右の
知らせの來るのも待ちかね
てゐたが、資正の顔を一目
見るより扱は上首尾であつ
たなと思つた

資『さてお父上、村正殿、
お喜び下さい、御蔭様にて
上の一番になりました』
父『エ、ツ、夫は……』
と云ふと、嬉し涙をホロ
／＼と流した。資重も
資『上の部へ入つたなどは
思つたが、眞逆に一番とは
思はなかつた』
資正は懷中より取出して
見せる
村『資正殿、今日のお喜び
も、日頃貴所の御教道を天
の感する所でございます
之れからもある事、一度や
二度の失敗で氣を落し、死
なうなどといふ氣をお起し
になつてはなりません』
資『有難う存じます、御教
訓は決して忘れません、之
といふも皆貴所様のお蔭で
ございます』
其の日は門弟共を集め祝

院醫科齒村中

七町冶鍛町平

木村 外科醫院
平町五丁目橋際
電話九〇三番

貨切の●●●
御用命は!!!
獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……………(マツサキ)
三九ニタクシーへ!!!

米國製削皮膚病良藥
レメドール
子宮病、根切藥、下腹や
腰の痛みをなほす事妙な
丹波博士創製セキドメ
宮 温 湯
たんばあめ
靈藥ムテキ
平町古鍛冶町一〇

阿 康 藥 舖
縣社ノ下 電話四四番

吉田眼科病院
平鍛冶町、電話六八番

高久病院
院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科
平町田町 電話五二三番